

# 子どもたちの未来を デジタルタトゥーから守るために

私たちが日々SNSなどのインターネット上で目にする言葉や画像、動画は、気づかないうちに**“デジタルタトゥー”**としてインターネット上に残り続けることがあります。軽い気持ちの「悪ふざけ」が一生消えない傷となり、子どもたちの未来を壊しかねません。子どもたちの一生の後悔とならないように、事例を見ながら、今一度ご家庭でマナーやモラルのあり方、道徳心について話し合ってみませんか？

## 不適切行為の事例

Aさんは、教室でふざけて消火器で遊んでいました。そして、それを面白がった友人は、その様子を動画に撮り、SNSに投稿しました。



消火器で遊ぶというのは、不適切な行為です。その行動が誰かにケガをさせたり、傷つけたりするかもしれません。こうした不適切な動画の投稿はもちろんですが、その行動自体、しないようにしましょう。

## 迷惑行為の事例

飲食店で、Bさんは友人とご飯を食べていました。楽しかったBさん達は、悪ふざけで、お店の備品を雑に扱っている様子を動画に撮り、SNSに投稿しました。



こうした迷惑だと思われるような動画は、デジタルタトゥーになりやすいものです。悪ふざけであっても、備品を壊すなどで新しく購入する必要がある場合、その費用を請求されることがあります。

## 危険な行為の事例

Cさんは、正面から好きな電車の写真を撮りたくなり、電車が来る直前に踏切に身を乗り出して写真を撮りました。そして、その写真を自分のブログに投稿しました。



踏切に身を乗り出す行為は、とても危険です。こうした危険な行動により、電車の運行に影響が出てしまい、多額の損害賠償を請求されることがあります。

ルールやモラルを守らない行動はもちろん、そういった行為の投稿もしてはいけません。インターネットは消しゴムのない世界です。謝っただけでは、罪は消えません。何が正しい行動かを、今一度ご家庭で具体的に話し合ってみてはいかがでしょうか。

投稿は一瞬、デジタルタトゥーは一生。行動には責任を持とう。